

次の世代へ文化を引き継ぐ

園長 児嶋 草次郎

今年の茶臼原の初霜は、11 月 22 日でした。まだ太陽の登る前、下のハウス内の種まきに下りていくと、水田に残る藁（わら）の表面が白く凍っていました。

この宮田川添いの水田地帯には、西の方向にさえぎる山が何もなく、米良山系の吹きおろしが直接流れ込んでくるので、冬の一番寒い時は、マイナス 7 度前後にもなります。そういうわけで、このあたりではこのハウスの前の水田に一番最初に霜が下りるのです。それから数日で、方舟館前のイチヨウの木は、すっかり黄色に色づきました。

その次の日 23 日（日）は、収穫感謝祭で、雲一つない青空のもとで、石井記念友愛社のフヨウの花で輝く敷地内に、1200 人ほどが参集して盛大に開催されました。内容は、毎年同じようなメニューですが、多くの支援者の方々への感謝を表明する一日でもあり、終ってホッとしています。

私は開会式で次のような挨拶をさせていただきました。

私たち人間は 20 万年か 30 万年前から狩猟採集生活をする中で生きて来ました。そのことを考えると、保育園の子供たちが山に行ってドングリの実を拾い集めたり、小枝や落葉等を拾い集めたりすることが、人間として生きるための生活訓練の始まりだと思います。石井記念友愛社の各保育園では、その原点を体験し、自然人としての感性を養う保育をしています。

人間はやがて成長し、狩猟採集から作物を作る農業を生み出します。友愛園の子供たちは、米を作ったり野菜を作ったりする体験を重ねることで、自然と共生する感性を養い、人間として生きていくための様々な知恵・自立力を獲得していきます。

自然とともに生きて来た日本人にとって、天や自然への祈り・感謝は当然抱くことであり、春には五穀豊穡を祈り、秋の収穫の時期には、昔は新嘗祭（にいなめさい）と言っていましたが、感謝の祈りを天や自然にかかげてきました。

今日は、その感謝の日です。世の中には色々とイベントは多いけど、石井記念友愛社の収穫感謝祭は、今話したように純粋なものです。

石井記念友愛社の各施設は、多くの方々に支えていただいています。そういう方々への感謝の日でもあります。ここで収穫した米や野菜類を材料としてカレー等の料理を作って、日頃お世話になっている方々をお招きして食べていただきます。後援会「石井十次の会」の皆様を初め、多くのボランティアの方々が関わって下さっています。今日は、ゆっくりおすごしください。

9 時 30 分から始まった開会式が終る頃には、どんどん人も集まり、庭の隅で遊んでいたスズメやカラスのつがいも、どこかへ隠れてしまいました。

それからアトラクションで、ひかり保育園児の遊技、のゆり幼児園児の和太鼓、ひかり・のゆり・やまばと・明倫の幼児たちの空手演武と続きました。その中で私がうれしかったことがあります。のゆりの和太鼓の時、子供たちは、それぞれ豊臣、島津の家紋入りの鉢巻きをし、演奏中に家紋入りのぼり旗を立てたことです。昨年の収穫感謝祭の後、12 月の友愛通信で、この地が「九州の関ヶ原の戦い」の激戦区であ

る（根白坂合戦）ことを示し、多く若者たちの夢の埋まった大地を理想郷にしようとした石井十次の思いも重ねながら、弔い・慰霊としても演奏を位置づけるように提案したのです。その私の思いに答えてくれました。無心にたたく子供たちの姿をじっと見つめているうちに、天から魂が下りて来ているようにも感じ、胸がいっぱいになりました。

若い高鍋出身の演歌歌手や木城の中学生のシンガーソングライターが飛び入りで参加してくださったりして、アトラクションは充実した内容になっていました。

私はいつものように会場内をあちこち歩き回り、懐かしい人との再会を待ちました。そして、幸運にも、80歳代の友愛園の卒園生お二人に合うことができ、話もさせていただきました。

実は、石井記念友愛社では、創立80周年を記念して、静養館西側の倉庫（蔵）を改装して、「石井記念友愛社資料室」を作っています。その展示内容について今、アレコレと考えているところです。ちょうど児嶋琥一郎時代の石井記念友愛社の事業について、元福岡県立大学教授の田代英美氏等が、社会学的な見地から検証してくださっており、それらを基盤にまとめる予定です。私としては卒園生の言葉も大事にしたいと考えているのです。

昭和25年、小2の時に入所したというH・Mさん（男性）は、現在82歳。石井記念友愛社が始まったのは昭和20年、私が静養館で生まれたのは昭和24年。草創期の友愛社文化を作っていた大先輩です。私もH・Mさんには小さい頃にかわいがってもらいました（その頃は職員もその子供も園児も一緒に生活）。H・Mさんは中学卒業した時体が小さく、1年間農業で体づくりをして就職されたのだそうです。現在、お孫さんが薬剤師と学校の先生をしていると話されていました。

もう一人のM・Mさん（女性）は、つい先日500万円を寄付してくださいました。御主人を早く亡くされ、子供さんもいないので、今はお一人で生活されています。現在84歳で、入所は8歳の時だそうです。歩いて高鍋高校に通われたとか。あの当時、高校進学することは、今の大学進学以上に難しい時代でした。

このお二人の思い出と後輩たちへの激励は、ぜひ「資料室」に掲示したいと考えています。

この資料室は、単に80年の歴史を記録する場ではなく、ここに御縁があって入所して来る子供たちが、それまでの自分の運命を整理し、将来に向けて、夢・志を描ける場、そういうチャンスを与えることのできる空間になればと願っています。

施設否定論が浸透する今の社会状況の中において、石井記念友愛社の歴史・文化によるささやかな抵抗になるのかもしれませんが。

H・Mさん、M・Mさん以外にも多くの懐かしい人に再開できた収穫感謝祭でした。ありがとうございました。

収穫感謝祭は無事に終わりましたが、保育園や友愛園の子供たちの自然物を使った作品は、高鍋の「せいごろう亭」に展示してあります。案内には「子供たちが、田畑や野や林や森の中を散歩し、木や草や木の実、それに土などを集め材料にして、様々な作品を作りました。子供たちは、この大自然との共生を通して、大気をエネルギーとしながら、人としてこの世界を生きていく感性・基本的知恵を習得します。」と書いてあります。初冬の一時、子供たちの作品に触れて楽しんではいかがでしょうか。魂の故郷に帰った気持ちになれます。12月21日（日）頃まで展示してあります。

次の日、11月24日（月）には、収穫感謝祭のためにわざわざ帰省してくれた卒園生のT・Y君（47歳）とK・Tさん（58歳）が、友愛園の子供たちに、話をしてくれました。ちょうど午前中「明倫塾」として時間を取っていましたので、23日に突然お願いして、快く引き受けてくれました。二人は、私が友愛園の指導員時代、園長時代に、共に汗を流して文化を作った言わば同志です。二人の証言も「友愛社資料室」に掲示したいと考えています。いずれ、話を文章化して送ってくれると思いますが、ここには、私のこの

時のメモを掲載させていただきます。この年齢になって言えることですが、人生色々。私も厳しい指導員でした。反省することも色々あります。しかし手抜きをしたことはなく、常に子供以上に自分自身に対しても厳しく律して来たつもりです。ともにいいことも悪いことも、すべてを自分の未来を切り開くエネルギーとして来た私であり、二人でもありました。それが互いに自分たちの人生とも言えます。

まず Y 君ですが、高校卒業後、東京の方の働きながら学ぶ保育専門学校に進学。今は、関東の方の児童福祉施設で働いています。T さんは高校卒業後、やはり働きながら看護師養成の学校に通い、今は子育ても終えて静岡の方で高齢者施設で看護師をされています。

私は子供たちに二人を紹介し、先に 2 点話しておきました。

石井十次先生は、この静養館で亡くなりました。亡くなることを悟った時、職員、卒園生、在園生を集めて、次のようなことを言ったそうです。

『一人ひとりが石井十次になって、志を引き継いでほしい』。

それからもう 110 年以上がたっているけど、この友愛社に関わった者はみんな、その志を引き継ぐ責任がある。みんなの先輩のお二人は、自分なりに今生きている世界でその志を引き継いでおられると思う。

昨日の収穫感謝祭に向けてみんなは、労作作文を書いた。昨年「みどり賞」をもらえたのに今年もらえない者もいる。色々失敗をしても考えが深まってない。新たな気付きがないと感じさせられる。自分だけの世界で考えても世界は開けない。温故知新と言うけど、今日は大先輩の話を聞いて、自分の器を大きくしてほしい。

Y 君（47 歳）の話

小 3 の時に友愛園に入所し、30 年前に卒園しました。施設だからこそ体験できたこともあり、良い所で良い教育を受けたと思っています。施設で高校受験に失敗したけど、もったいないから私立に行けと担当の先生に言っていた。がんばり貯金が残っていたのでだと思ふ。自分にとってはターニングポイントだった。感謝しています。前向き、ポジティブ、忍耐、感謝を学んだ。

働きながら保育士養成の学校に行っている時、手取りは 5 万円ほどだったけど、貯金 10 万円は崩さないようにした。今児童養護施設で働いていて「収入の 3 分の 1 は貯金しよう」と話している。

休みの日には山に登るのが楽しみ。日本アルプスにも登る。茶臼原にいる時には、この自然が普通だったけど、ここを出たらこの美しさが分かる。

みんなの労作作文は、昨日全部読んだ。内容は自分たちの頃とそう変わらない。自分をさらけ出して、もっと素直に書くことが大事だと思う。字も丁寧に書くとよい。心が字に現れる。問題を起こしたとか自己コントロールできないとか書いているけど、それは、今しか見てないから。その時のことしか考えてないから。将来、10 年後の自分を考えて行動すれば問題は減る。信頼もされる。やらされているうちはダメ。

99 対 1、100 のうち一つでも自分でやるという気持ちをまず持つことが大事です。

T さん（58 歳）の話

私は、中 2 の時に入所して、4 年半くらいここで生活して、40 年前に卒園しました。あの頃は、薪でお釜で、ご飯を炊いていました。カマドから七輪に炭火を移して、それで卵焼きも作っていました。一人で高校生 10 人分くらいの弁当のおかずを作ることもあり、朝は戦争でした。夏のキャンプは 4 泊 5 日くらいで、リュックにテントから食料まで全部つめて、30K、40K 歩くこともありました。タヌキ鍋は、ススがつくのでみんな持ちたがりませんでした。キャンプ中に台風が来て流されそうになったこともあり、崖に落ちそうになったこともあります。今では楽しい思い出です。

中 2 で入所した時、草先生に言われた印象的な言葉があります。「選ばれた人しかここにいけないのだ」です。苦しいことを乗り越えて来たからここに来たのだと解釈し、壁にぶち当たっても大丈夫という自信

になり、自己肯定感にも変っていきました。みんなも選ばれて来ている。だから、これからの壁は絶対に乗り越えられる。頑張ってほしい。ここで身につける精神力や根性が役に立つ日は絶対来る。

家では学校に行けなかったから、成績は下の下でした。最初の頃は高校には行けないとあきらめていたのに、成績がどんどん上がっていきました。働きながら準看の資格をとり、さらに3年かけて高看の資格を取りました。

人の悪口を言ったり、自由がよい、のさん、つらいとかマイナス思考は心を不健康にします。そこからは何も生まれません。ネガティブ思考をポジティブ思考に変えることが必要です。ちょっと角度を変えて考えてみるとか、色んな人に相談してみるとかやってみるとよい。

自分を大切にしてほしい。相手も大切にしてほしい。恋愛関係でも、自分をダメにしてしまう相手は好ましくない。見極める力を育ててほしい。感謝の気持ちを忘れず、誇りを持ってがんばってください。

それから数日がたち、こうして今回の流れをまとめています。この数日間の出来事が、友愛社文化として結晶化して来ているのを感じます。これは偶然の出来事なのだろうか。私の強い思い・願いに、先人たちの魂が卒園生を派遣してくださってのではないかとさえ感じたりしています。とにかく充実した「友愛社資料室」にしたいと思っています。

室内の改修もかなりできて来て、これから魂を入れていかねばならないのですが、26日(水)、私の作ったシーグラスを使ったステンドグラスを業者の方に南側の窓にはめ込んでもらいました。60cm×50cmほどの小さなものですが、毎年使う収穫感謝祭のチラシを飾る、収穫物を抱えたマスコットを中心に、大自然との共生をテーマに作っています。これから40年、50年と、この大自然のまばゆい太陽の光を室内に取り入れてくれることでしょう。

今年も残り1か月を切りました。この1年も多くの方々に、子供たちや職員たちを支えていただきました。おかげ様で無事に、クリスマス、正月を迎えられそうです。

世界へ目をやると、ロシアのウクライナへの侵略はまだ終わらず、前世紀の弱肉強食の時代にまた戻るのではないかとさえ思わせられる世界情勢になって来ているように感じます。世界の強国の価値観に飲み込まれず、日本の子育て文化の中で、子供たちが未来へ夢と志を描ける社会を守るべく、来年もまた戦っていきたいと思います